

ライオンズ・ローア

近年地区ガバナーが就任に当たりライオンズ・ローア、乾杯時のウィ・サーブの使用について種々の意見が議論された。この中の「ライオンズ・ローア」について下記の通りである。

ライオンズ必携の用語解説（ライオンズ・ローア）

文字通り「ライオンズのおたけび」で、意図するところは、本来、退屈、疲労又は眠気を一掃する為、議事を中断し、全員起立して両手を前方水平に突き出しつつ、勢いっぱい「ウォーッ」とやったところにあるらしい。会議の終了を示す場合又は氣勢をあげる形式としてのローアは、時代とともに推移したものと考えられる。いずれにしても本来一声形式のものであるが、万歳三唱などの風習に従い、三声形式もわが国では広く慣習化されている。

「両手を前方水平に突き出し一声」が本来の形のように思われる。

1956年5月第2回地区年次大会（大阪・当時は日本は1地区302地区）の晩餐会プログラムに「ライオンズ・ローア・コンテスト」という文字が記載されている。又ニホストクラブである大阪LC会長による閉会挨拶の前に、全員でのライオンズ・ローアも組み込まれている。ローアを三声したのは、1958年4月第4回地区年次大会（岡山・302地区）での記録が残されている。

必携の参考資料の中で「チャター・ナイト次第」の（14）ライオンズ・ソング及びライオンズ・ローア記載されている。